

●紙すきの方法とくふう



▼①「こうぞ」の皮をむく
かりとった「こうぞ」の木を大きなかまでもし
てから皮をむく

◀紙の原料になる「こうぞ」の木（「かずの木」ともいいます）

「こうぞ」はむかしから紙の原料としていちばんよいといわれ、1000年以上も前から全国に植えられたといわれています。とくに福島県の「こうぞ」は紙にすくと、じょうぶで美しいので有名でした。（紙は）冬の寒いときにすくとよい紙ができるので冬の仕事でしたが、寒いのでたいへんでした。皮をむいたりする仕事は子どもたちの仕事でした。

紙すきのじゅんじょ



▼③白い皮をきれいにあらう（むかしはあぶくま川で）

▼②外がわの黒い皮をとる（「かずひき」といった）



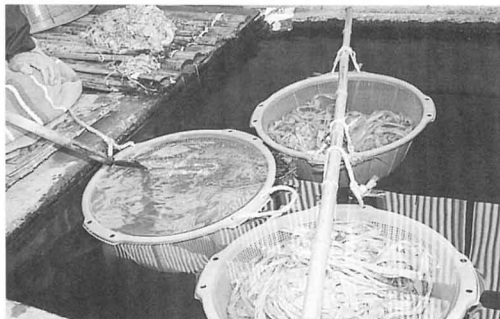
かずひきは主として子どもたちの仕事でした。

▼④あらった皮を大きなかままでに



きれいにあらった「こうぞ」の皮を大きなかままでにやわらかくします。

むかしはこのときはいのしるを入れました。いまはカセイソーダというくすりをまぜてよくにます。



▼⑤やわらかくなった皮をたたいてつぶす



むかしは手でたたいてつぶしました。今はピーター機という機械をつかいます。

ネリ▶

（紙をすくには）「こうぞ」だけでは紙になりません。ネリという植物のしるをまぜます。



お問い合わせ先は 上川崎和紙振興組合
電話 0243-52-2494（安斎 保彦 様）です。



上川崎川の端の栗舟渡し場（智恵子大橋の近く）のあたりに、今も紙をすいている家があります。